

「ゴールデンウィーク」によせて

～生徒のみなさん、保護者の皆様へ～

4つの祝日が続くゴールデンウィークにちなみ、今年度は、1年生は文部科学省発行の『私たちの道徳』、2年生は中学生人権作文コンテストの入賞作品、3年生は一昨年度に海南東ロータリークラブ40周年記念事業として寄贈された『心にしみる小さな5つの物語』を読んで、親子で読んで話し合っていたいただくことを計画しました。

学校にお寄せいただいたたくさんの感想文の中から、ほんの一部で恐縮ですが、紹介いたします。ご協力、有り難うございました。

平成30年5月9日

海南市立第三中学校 人権教育部

【2年生】 第37回中学生人権作文コンテスト 文部科学大臣賞

「地球人でええやんか」

(滋賀県・中学校 1年 木田 美映 ミシェル さん)

【生徒感想】

読み進めると、外国の人が今、日本で普通に当たり前前に生活できているのは、今までの色々な人々の努力のおかげで、色々な国の人の血が入っているということは、その人たちの声や魂、叫び、想いがつまっていた、そのことを思うとリレーのバトンを私たちは今持っていて、いいかげんに生きるわけにはいかないと思った。そのことを思うと、「日本人」というわけにはいかない「地球人でええやんか」という意味が分かった。



この作文の中で、お父さんの言葉が一番心に残っています。「今は種をまく時期、子供が大人になったとき花咲いてたらそれは大成功や。だからがんばる」お父さんもすごい！と思いました。自分には何の利益もないのに、後の世代のために自分の大切な時間を使って行動を起こす。その精神が、何というか、私には考えつかないと、感心をこえて感動しました。私は、地球人であることを誇りに思って、精一杯に生きて、後の世代のために自分の時間を快く使ってがんばれるような人になりたいと思いました。

私は、今こうやって普通に生活していることを当たり前だと思っていました。ですが、この文を読んで、当たり前やふつうの有り難さを感じました。自分が普通に生活できているのは、家族や地域の方々が「子供たちが暮らしやすいように」と色々な苦勞などをしてくれたおかげだと気づきました。なので、色々な人に感謝をして、今度は私が色々な人のためになるような何かをしてあげたいなと思いました。

お母さんの「地球人でええやんか」が心に響いたというか、ずきんときた。自分は日本に住んでいるから、「あなた何人？」て聞かれたら「日本人です。」と答えればいいんじゃないかと思った。でもお母さんの考えは共感できた。そして、お母さんがポジティブだった。普通だったらもっと深く考えるはず。なのに、「地球人でええやんか」と特にどこの人と決めることなく、その国その国の伝統を伝えていこうとするのがすごいことだと思った。

お父さんが、外国の子たちの困っている姿を見て、自分の子が日本で暮らしやすい未来を作るという大きなことを決心するのはすごいなと思いました。私が心に残った言葉は、「脈々と繋がる血のリレーが私たちに受け継がれていること、だからこそ精一杯生きて、よい世の中を次の未来につないでいかないといけないのだ。」です。意味の深い言葉だなと思いました。

【保護感想】

とても面白い内容でした。お母さんが答えた「あんたは地球人」、ユーモアの中にもとても深い言葉。だからこそ、娘さんが自分で探求し、自分なりの考えが出来たのだと思います。どんな人でも全て地球人。血のリレーが受け継がれていることを誇りに思い、命を大切にすることを私自身も子供たちに伝えられるように…と思わせてくれるような内容でした。

混血の人が少ない日本では、姿が違っていたら目立ってしまうのは仕方ないんだろうけど、お父さんもお母さんも前向きに努力されていて、その姿がこの女の子にもちゃんと伝わっていて、当たり前前なことや普通の生活に感謝できる子に成長したんだろうなと思います。当たり前前なことや普通の生活に感謝の気持ちを持つには、何かきっかけがあることだと思う。でも、それに気付いたとき、少し心が豊かになるんだと私は思います。

今、私たちが当たり前のように過ごしている日々は、そのほとんどが先人達の不断の努力の上に成り立っているのだと改めて思いました。また、生まれた場所や容姿などを理由に、当たり前前の生活が失われるようなことがあってはならないと再認識しました。私たち一人一人が視野を広げ寛容になることにより、暮らしやすい社会ができると考えます。個人ができることに限界はありますが、継続することにより、周囲の理解を得て大きな力となると信じています。

「地球人でええやんか」、かなりインパクトのある返答だなと思いました。人種差別や偏見のない暮らしやすい世の中にしたい。子供たちの未来を考え、活動した親の気持ちが、この一言に詰まっているなと思いました。自分のルーツを知り、より暮らしやすい日本を未来につなごうという決心が感じられました。親の気持ちや考えが伝わって、前向きなところがとても良いなと感じました。

* 「地球人でええやんか」は、「I'm an earthling. What's wrong with that?」と英訳されて、法務省ホームページ（英語版）、The National Human Rights Essay Contest for Junior High School Studentsにも掲載されています。